

みょうほうれんげきょうほうほんだいに  
妙法蓮華經方便品第二

(財) 法華会 渡邊寶陽 監修

そ とき せそん さんまい あんじよう  
爾の時に世尊、三昧より安詳として起つて、  
その時に世尊は、三昧(雑念を離れ心を集中した状態)から安らかに立ち上がった、

しゃりほつ つつ しょぶつ ちえ じんじんむりよう  
舍利弗に告げたまわく、諸仏の智慧は甚深無量なり。  
舍利弗に告げられた。 三世十方のもろもろの仏が備えている智慧は、極めて深く、計り知れない。

そ ちえ もん なんげなんにゆう  
其の智慧の門は難解難入なり。  
その智慧の門は理解しがたく、入りがたい。

いっさい しょうもん ひやくしぶつ し あた ところ  
一切の声聞・辟支仏の知る能わざる所なり。  
すべての声聞(小乗の教えを聞いて悟りを求める修行者)、辟支仏(ひとりで悟りを求める修行者・縁覚)たちには知ることができないところである。

ゆえ いか ほとけかつ ひやくせんまんのくむしゆ しょぶつ しんごん  
所以は何ん、仏曾て百千万億無数の諸仏に親近し、  
そのわけはなぜか、仏はかつて百千万億という数え切れないほど多くの仏に親しみ近づいて、

つ しょぶつ むりよう どうほう ぎよう ゆうみようしようじん  
尽くして諸仏の無量の道法を行じ、勇猛精進して、  
そのもとで多くの仏たちの数え切れないほどの仏道の修行を実践し、雄々しく意志強固に精進努力して、

みょうしようあまね きこ  
名称 普く聞えたまえり。  
その名前は広く聞こえていた。

じんじん みぞう ほう じょうじゆ  
甚深未曾有の法を成就して  
そして、はなはだ深遠で、いまだかつてない最高の仏法を体得して、

よろ したが と ところ いしゆさと がた  
宜しきに随つて説きたまう所、意趣解り難し。  
その法を聞く者の能力に応じて、さまざまに説かれたので、その意趣を理解することが難しいのである。

しゃりほつ われじようぶつ このかた  
舍利弗、吾成仏してより已来、  
舍利弗よ、私は成仏してからこのかた、

しゆじゆ いんねん しゆじゆの ひゆ  
種々の因縁・種々の譬喩をもつて、  
種々のいわれや、種々のたとえをもつて、

ひろ こんきょう の むしゆ ほうべん  
広く言教を演べ、無数の方便をもつて、  
広く教えを説き、無数の教化の方法によって、

しゆじょう いんどう もろもろ じゃく はな  
衆生を引導して諸の著を離れしむ。  
衆生たちを導いて、多くの執着から離れさせた。

ゆえ いか によらい ほうべん ちけん はらみつ  
所以は何ん。如来は方便・知見波羅蜜、  
なぜかという、如来は教化の手段と、物の本質を見極め覚る上での完全性とを、

みなすで ぐそく  
皆已に具足せり。  
みなすでに具えているからである。

しやりほつ によらい ちけん こうだい じんのおん  
舍利弗、如来の知見は广大深遠なり。  
舍利弗よ、如来の真理を見極め覚る智慧は、广大で深遠である。

むりよう むげ りき むしよい ぜんじょう げだつ さんまい  
無量・無礙・力・無所畏・禅定・解脱・三昧あつて  
四無量心（仏がもつ慈・悲・喜・捨の四つの広大な心）  
四無礙弁（仏菩薩の説法における法無礙弁・義無礙弁・辞無礙弁・楽無礙弁の四つの自在な能力）  
十力（仏のもつ十の智力）  
四無所畏（仏が説法をするに際して畏れを感じない正等覚・漏永尽・説障法・説出道無畏の四つの智徳）  
禅定（心を静め精神を集中すること）  
八解脱（煩惱、心の迷いの束縛から脱して、平安な悟りの境地に入ること）  
三昧（瞑想に入つて、心を平静にして対象に集中すること。空・無相・無願の三昧がある）があつて、

ふか むさい い いっさい みぞう ほう じょうじゆ  
深く無際に入り、一切の未曾有の法を成就せり。  
深く際限のない境地に入つて、 全てのいまだかつてない法を体得したのである。

しやりほつ によらい よ しゆじゆ ふんべつ  
舍利弗、如来は能く種々に分別し、  
舍利弗よ、如来は種々によくわかまえ、

たくみ しょほう と ごんじにゆうなん  
巧みに諸法を説き、言辞柔軟にして、  
たくみに多くの法を説き、その言葉は柔軟で、

しゆ こころ えっか  
衆の心を悦可せしむ。  
大勢のもの的心を喜ばせ安らかにさせる。

しやりほつ　　よう　と　　これ　い  
舍利弗、要を取って之を言わば、  
舍利弗よ、要点をかいつまんで言えば、

むりようむへん　みぞう　ほう　　ほとけことごと　じようじゆ  
無量無辺未曾有の法を、仏　悉く成就したまえり。  
限りなく無量のいまだかつてない法を、仏はすべて体得されたのだ。

や　　しやりほつ　　またと　　ゆえ　　いか  
止みなん、舍利弗、復説くべからず。所以は何ん。  
止めよう。　　舍利弗よ、　　もうこれ以上説くことはできない。　　なぜならば、

ほとけ　　じようじゆ　　ところ　　だいいちけう　　なんげ　　ほう  
仏の成就したまえる所は、第一希有難解の法なり。  
仏が体得された境地は、　　最上の法なのであり、出会うことがまれで、理解しがたい法であり、

ただほとけ　　ほとけ　　いま　　よ　　しよほう　　じつそう　　ぐじん  
唯仏と仏と乃し能く諸法の実相を究尽したまえり。  
ただ仏と仏のみが、よくきわめ尽くすことができる諸法実相（あらゆる存在のありのままの姿）だからである。

いわゆるしよほう　　によぜそう　　によぜししよう　　によぜたい  
所謂諸法の如是相・如是性・如是体・  
その姿とは、言うならば、次の十のありかたである。あらゆる存在はどのようなすがたであるか。どのような本性をもっているか、どのような本体をもっているか、

によぜりき　　によぜさ　　  
如是力・如是作・  
どのようなはたらきをもっているか、どのような作用をもっているか、

によぜいん　　によぜえん　　によぜか　　によぜほう  
如是因・如是縁・如是果・如是報・  
どのような直接的原因があるか、どのような間接的原因があるのか、どのように直接な結果が生ずるのか、どのように間接的な結果が生ずるのか、

によぜ　　ほんまつ　　くきようとう  
如是本末究竟等なり。  
そして相から報までの本と末が緊密に関連しあってはたらき、平等であるというこである。